

平成20年1月26日(土)

金融教育フェスティバル2008

ライフプランと ファイナンシャル・プランニング

【講師】

有限会社ストックアンドフロー
ファイナンシャル・プランナー
(1級FP技能士、CFP)

新倉 由紀



社団法人金融財政事情研究会

1.資産づくりのスタートはライフプラン作成から

●なぜライフプラン作成が大切なのか？

→ 知っているのと知らないのとでは大違い。

お金にも働いてもらえる人とそうでない人では将来、大きな差が！

(1) あなたの夢はなんですか？

・() 年後までに () をしたい

ex.留学、独立開業、結婚、マイホーム取得、資格取得、

お子さんにはこういう教育を受けさせたい、

老後はどこで、どのように暮らしたいか etc.....

(2) それをするために、必要な技術・資格は ()

金額は () 円

やっておくべきことは ()

(3) 「係数表」から毎年の積立て額をチェック！！

2.現状把握をしましょう

(1) 年間の収支状況の把握

①年間ベースの手取り収入の確認

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{年収} \\ \hline \text{万円} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{税金} \\ \hline \text{万円} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{社会保険料} \\ \hline \text{万円} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{手取り収入} \\ \hline \text{万円} \\ \hline \end{array}$$

②年間ベースの総支出額の把握

ここ1年で貯蓄をした人は1)の式、貯蓄ができなかった人は2)の式を使う

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{手取り収入} \\ \hline \text{万円} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{年間貯蓄額} \\ \hline \text{万円} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{年間総支出額} \\ \hline \text{万円} \\ \hline \end{array}$$

③家計の実態の把握

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{年間総支出額} \\ \hline \text{万円} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{住居費} \\ \hline \text{万円} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{保険料} \\ \hline \text{万円} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{食費・公共料金等} \\ \hline \text{万円} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{その他支出} \\ \hline \text{万円} \\ \hline \end{array}$$

※一時的支出がある場合は、それも差し引いた金額が「その他支出」

【主な支出項目】

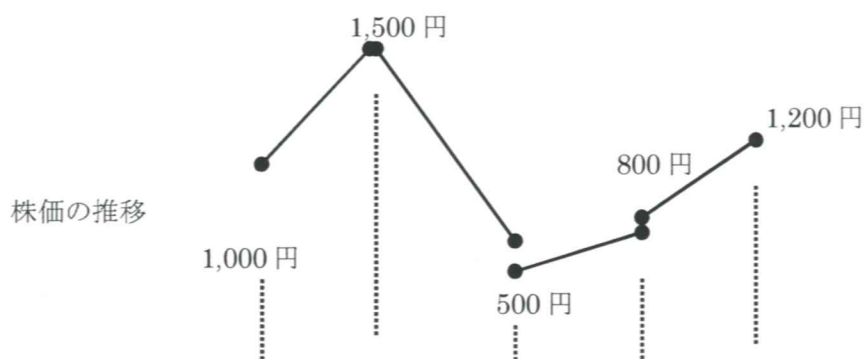
基本生活費	食費、水道光熱費、お小遣いなど
住居費	家賃、住宅ローン返済額、固定資産税、管理費など
教育費（自己投資費）	学校教育費、学校外教育費など
保険料	生命保険料、損害保険料など
その他支出	レジャー関連費、耐久消費財の購入、交際費など
一時的支出	車の買換え費用など

3. お金の貯め方、殖やし方

(1) これから貯めていくなら

- お金に色をつけましょう → 目的別に利用商品、口座を分ける
- これから貯めようという人は、1日も早く積立てをスタートする
 - ・ 積立てでポートフォリオを組める時代
 - ・ 時間を味方につけられる「ドル・コスト平均法」

<図表1> ドル・コスト平均法の効果



「定量購入」 月々10株ずつ	株数	10株	10株	10株	10株	10株	合計50株
	金額	10,000円	15,000円	5,000円	8,000円	12,000円	金額50,000円 平均単価1,000円
「定額購入」 月々1万円ずつ	株数	10株	6.6株	20株	12.5株	8.3株	合計57.4株
	金額	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	金額50,000円 平均単価871円

注：手数料などのコストは考慮していない。なお、「株数」の端数は切り捨てて表示。

<図表 2> 積立投資開始後の株価推移による比較（定額購入：月々 1 万円）

株価上昇→下落	株価	1,000 円	1,250 円	1,500 円	1,250 円	1,000 円	合計 42.6 株 金額 50,000 円 平均単価 <u>1,174 円</u> 時価：42,600 円
	株数	10 株	8 株	6.6 株	8 株	10 株	
株価下落→回復	株価	1,000 円	800 円	500 円	800 円	1,000 円	合計 65 株 金額 50,000 円 平均単価 <u>769 円</u> 時価：65,000 円
	株数	10 株	12.5 株	20 株	12.5 株	10 株	

注：手数料などのコストは考慮していない。なお、「株数」の端数は切り捨てて表示。

(2) 殖やし方

●リスク商品とどう付き合っていくか？

→ 投資信託、投資型年金、株式 etc...

●分散投資のコツ

→ 値動きの異なる商品を組み合わせる

インフレ、デフレ、時代に合った商品選び

★投資においても、一度に投資せず時間を分散する方法もある

4.金利動向の影響をチェックする

- 金利上昇がマイナス要因となるもの

住宅ローン	×
外貨建て商品	△
国内債券（既発債）	×
国内REIT（不動産投信）	△

- 金利上昇がプラス要因となるもの

個人向け国債（変動金利）	○
生命保険	○
日本株	○
預貯金	△

《参考資料》

●年金終価係数表(年1回(期末)の積み立てでn年後いくらになるか)

利率 年	1%	2%	3%	4%	5%	6%	7%
5	5.101005	5.204040	5.309136	5.416323	5.525631	5.637093	5.750739
6	6.152015	6.308121	6.468410	6.632975	6.801913	6.975319	7.153291
7	7.213535	7.434283	7.662462	7.898294	8.142008	8.393838	8.654021
8	8.285671	8.582969	8.892336	9.214226	9.549109	9.897468	10.259803
9	9.368527	9.754628	10.159106	10.582795	11.026564	11.491316	11.977989
10	10.462213	10.949721	11.463879	12.006107	12.577893	13.180795	13.816448
15	16.096896	17.293417	18.598914	20.023588	21.578564	23.275970	25.129022
20	22.019004	24.297370	26.870374	29.778079	33.065954	36.785591	40.995492
25	28.243200	32.030300	36.459264	41.645908	47.727099	54.864512	63.249038
30	34.784892	40.568079	47.575416	56.084938	66.438848	79.058186	94.460786

●減債基金係数表(n年後の目標額のために毎年いくら積み立てればいいのか)

利率 年	1%	2%	3%	4%	5%	6%	7%
5	0.196040	0.192158	0.188355	0.184627	0.180975	0.177396	0.173891
6	0.162548	0.158526	0.154598	0.150762	0.147017	0.143363	0.139796
7	0.138628	0.134512	0.130506	0.126610	0.122820	0.119135	0.115553
8	0.120690	0.116510	0.112456	0.108528	0.104722	0.101036	0.097468
9	0.106740	0.102515	0.098434	0.094493	0.090690	0.087022	0.083486
10	0.095582	0.091327	0.087231	0.083291	0.079505	0.075868	0.072378